

港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

98号

FB 港北区災害ボランティア連絡会

2021年11月

*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



太尾地区、地域防災体制づくりで総務大臣賞

---防災まちづくり大賞で---

地域ぐるみで防災体制を作り上げるのは言うは易く、行うは難しの事業です。学校(特に小学校)は地域の大事な拠点であり、小学校の規模の大小はその地域の年齢構成が高いか低いかの指標となります。またマンションの多い地域の学校は、最初は年齢構成が低くても数十年で廃校等になりかねない難しさがあります。マンションの多い地域での防災活動を作っていくのはなかなか難しいものがあります。

そんなマンションの多い太尾地区では太尾小学校を中心とした地域防災の仕組みを作り上げ、成果を上げたとして2020年度の総務大臣賞を受賞しました。その中身について大倉山地区連合長会長の秋本健一会長に話を伺いました。

*****秋本健一会長のお話*****

マンション建設が進んだため、自治会行事の祭りに参加する児童と参加しない児童の差ができ、地域にヒビが入っていったのをつないだのが防災だったそうです。防災士でもある鷺山元校長(北綱島小、太尾小などで校長歴任)の地域防災への思いと、地域の力がうまく噛み合っただけで地域の防災力が高まっていたと思います。外からの力をうまく取り込む力を受援力と言いますが、太尾地区では地域の核である学校の校長先生の働きかけをうまく受援して防災まちづくりが盛んになっていったようです。

ここでは先進的に学校運営協議会を設置し、討論を進め、その中から防災まちづくりを進める理論的裏付けとして「ふるさと太尾構想」が生まれたそうです。この活動の特徴は学校、PTA、地域住民、消防団などの活動が一体となって地域防災拠点の訓練が行われていることです。

発災時には、まず家庭内での避難体制を確立し、次いで隣近所、町会、自治会、マンションの安否確認を行うこと、そして初期消火や救出救助体制まで地域で作っています。自治会の安否確認システムは役員の中でITに詳しい方がシステム化したそうで、やはり地域には力を持った人が眠っているなあと思われました。

PTAも保健厚生委員会が「救護班支援」に、成



地域祭りを実施する力も防災力向上に一役



(写真は太尾宮前町町内会 FB より)

人教育委員会と保健厚生委員会が炊き出しに参加するなど噛み合った活動をする体制ができています。その力を総合的に展開する地域防災訓練は「防災劇場」と銘打ち、2000人規模の参加だそうです。

地域の防災訓練はスーパーライフの駐車場でも行うそうで、地域資源をうまく生かしていることが見て取れます。

また地域のすべてのマンションが地域防災組織に加盟しているそうで、とにかく地域防災でネットワークとなるマンションですが、この取り組みは素晴らしいものといえます。

それらは「太尾小学校防災マニュアル」としてまとめられており、ネットで検索することができます。ぜひいちど読んでみて参考になさることをお勧めします。

地域防災は担当者の熱意の違い等のため取り組みに濃淡があるのが実態ですが、港北区内のこのような取り組みが横に広がっていくよう情報を伝えていきたいですね。

(宇田川)

ご近所と話し合っていますか？

先日も大きな地震がありました。東日本大震災から10年余りが経過しました。普段から、ご近所と話し合っていますか？

あの日、私は都心の会社で働いていました。発災後、徒歩で6時間以上かかって自宅に辿り着きました。一息ついて思い出したのが、「母親が存命だったらどうなっていたら」という事でした。母親は、週5日間、3ヶ所のデイサービスにお世話になっていました。当時の契約で、1ヶ所は14時終了、残りは16時終了でした。また、認知症があり、家を飛び出して徘徊し、何度も警察のご厄介になっていました。発災当日が14時終了の施設ならば、その頃は帰りの車の中か、家に帰って一人でいました。もし家にいたら、驚いて徘徊していたかもしれません。

ご近所には、デイサービスを利用させている事、認知症がある事、デイサービスから帰ると一人でいる事もお話ししてありました。デイサービスを使うようになった当初は、母親が嫌がった事もあって、ご近所に話はしていませんでした。しかし徘徊する様になってからは、ご近所に事情を話して、時折様子見していただく様にお願いしました。

地域防災の資料の中に、要介護者や要介助者の資料があるはずですが、最近では整備が進んでいない様です。「資料整備の旗振り役がない」「個人情報で理由に教えてもらえない」などが理由のようですが、災害は待つてはくれません。発災時、避難時、自分の事で精一杯かもしれませんが、ご近所には手助けが必要な方がいらっしゃるかもしれません。「地域」では難しくても「ご近所」ならば、できるかもしれません。「共助」の気持ちで、ご近所同士話し合ってみてはいかがでしょうか。

(岩撫)

ハンデを持っている人が困ることを知ろう(第4回)

障害者の日常生活は綱渡り状態

10月7日の22時42分、突然大きく揺れて、ドーンと地響きがしました。ちょうど本棚の前にいたときだったので、倒れるかと急いで離れました。しかし、車いすに乗っているのに、直接下敷きにならないとしても進路をふさがれて動けなくなってしまうのかヒヤリしました。本棚に転倒防止金具を付けてもらったのは、約10年前。それから何年かして家具を移動したときに、せっかくの金具を壁からはずしたままにしてしまっていました。避難グッズも揃っていません。いつ大地震が来てもおかしくないのに…

それからマンションの3階に住んでいます
が、エレベーターが止まってしまいました。東
日本大震災のときにも2日止まりましたが、
今回も止まってしまい、なかなか復旧しませ
ん。自治会の方に聞いたら、震度4以下なら
コンピューターですぐ回復できるが、震度5以
上だと係員が目視で安全を確認しないとダメ
なのだそうです。結局今回も2日かかりまし
た。たまたま部屋の中にいたからいいようなも
の、外出していたら帰宅難民になるところ
でした。

このように障害があると少し揺れた地震で
も大事(おおごと)になってしまいかねませ
ん。それは私たち障害者の日常生活そのも
のが綱渡り状態だからです。

たとえば菊名駅周辺では道路事情が非常
に悪いです。特に朝の東口駅前、綱島街
道が交差しているところにバスも含め車が
多く、駅に向かう歩行者もおびただしいです。
それなのに道路は狭く、車も歩行者もこわご
わ通っています。歩道は幅1メートルほどで、場所
によってはもっと狭いところもあります。そこを
車いすで行くと、歩いている人は恐くて車道
に降りてしまいます。非常に危険で申し訳な
く、7~8時台は駅には行きません。でも、どう
しても行かなければならないときもあります。
細心の注意をはらっていますが、この10年
で2度歩行者に接触してしまいました。いず
れもちよつとズボンをかすった程度でしたが、
どちらかが車道に転落しかねない危険に常
にさらされていると思うと恐ろしいです。

それでも駅前には車も人も気をつけているか
ら、なんとかなっています。もっと危険なの
は、駅から区役所に向かう綱島街道沿いの
歩道に無数にある駐車場に入るための切り
欠きです。かなり古いものらしく、現状駐車場
の入口ではないところが多いです。この切り
欠きにさしかかると緊張します。うっかりすると
重たい電動車いすは車道にずり落ちてしま

からです。雨が降ると特に危険です。雨の日
は出ないことにしていますが、これだってどう
しても出なければならぬ日もあります。ある
日、歩道にはみ出している電柱を避けようと
したら、濡れていることに不慣れで、ズルズルと
後退し車道にはみ出してしまいました。幸い
後ろから来た車が止まってくれたからいいよ
うなもの、スピードの出る街道では事故につ
ながりかねません。

ハード・ソフトの両面で改善が急務です。
行政の責任は大きいですが、でもハードは急
には変えられません。まずはお互いの存在と危
険を知り、協力し合うことが求められていま
す。
(千田好夫)

シリーズ「災害食」

電気やガスを使わずにカップめんを食べるワザ

8/24TV「すイエんサー」にて紹介された災
害時でのカップ麺(水で40分)を本日昼、試
しに作り、食してみました。

通常は「お湯を入れて3分間」ですが、水か
ら作りますので、40分必要です。40分経過
後、良く混ぜて食しましたところ、お湯の時と
変わらぬ味わいでした。しかし、見た目には、
すっかり冷めたカップラーメンの感じでした。
災害時を想定しての食事ですので、我慢が
必要です。

しかし、水があれば、問題ありません。
ご参考までの、試食しての感想です。

(宮腰信一)

☆解説☆

すイエんサーとは
NHKの番組です！

9月1日は防災の日。それに先立ち8月24
日(火)に [防災用品]知っていると役に立
つワザが紹介されました。

